

資源物は回収拠点ボックスへ

シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④

プラスチックやペットボトル専用袋などの導入で、資源物の収集量は徐々に増えてきています。しかし市民からは「資源物の回収日が少ない」との声が。そこで市は、10月28日（金）から定期収集以外で直接持ち込める資源物回収拠点の実証実験を行っています。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 ☎88・8933

資源物回収拠点を市役所各庁舎に設置



資源物をいつでも持ち込める便利な回収拠点

市は、定期収集日以外で資源物をいつでも出せる拠点を市役所各庁舎に設置しています。詳しくは市公式サイトを確認ください。

- 回収できるもの ①プラスチック②ペットボトル③紙類（新聞紙、ダンボール、牛乳パック、雑誌、雑がみ）④衣類
- 資源物の出し方 ①②指定袋に入れる③種類ごとにひもで結ぶ④透明な袋に入れる



紙類はひもで結ぶ 衣類は透明な袋に入れる

令和3年9月の可燃ごみの量

柳川市	みやま市
1198トン	569トン

令和4年9月の可燃ごみの量

柳川市	みやま市
1142トン	401トン

9月の市内の可燃ごみの量は前年同月に比べ約5%減少。みやま市の可燃ごみの量は前年同月に比べ約30%減少しました。

3～9月の可燃ごみの割合

柳川市	みやま市
74%	26%



ごみ減量
大作戦



ごみ分別アプリ

●実証実験の場所



よくあるお問い合わせ

Q 自宅の庭で出た草木はどこへ持っていけばいいですか？

A 草木は柳川リサイクルセンター（三橋町久末）へ搬入をお願いします。料金は10kg当たり200円です。搬入のときに、指定袋に入れる必要はありません。水草や竹、葉は搬入できないので注意してください。



柳川とっておき歴史の話—立花宗茂外伝—第15回

【問】市観光課観光推進係 ☎77・8563



戸次道雪の傍らに眠る歴戦の勇士 立花賢賀（薦野増時）

立花宗茂の家の中には、もともと大友氏の直臣で、養父・戸次道雪の与力（主君の命で付けられた武將）であった人物もいて、立花家で別格の重臣となった立花賢賀も、その一人でした。

賢賀ははじめ、薦野増時と称し、先祖は筑前国薦野（現・福岡県古賀市）の国人領主であったようです。宗茂より24歳の年上とされる増時は、若き日、道雪に大きな期待を寄せられ、養子に迎えて家督を譲ろう、とされたことがありました。ところが、増時本人がこれに異を唱えます。

いま立花家の家臣は、道雪様に絶対の忠節を誓っているけれども、実態はさまざまな出身の寄せ集め。安易に家督を相続すれば、道雪様の跡に必ずお家騒動を起します、と。この発言に、増時の聡明さと道雪への真の忠誠心が読み取れます。

のちに増時は、道雪と申し合わせ、高橋紹運の子・統虎（のち宗茂）を道雪の養子とすることに成功しました。

親子ほど歳の離れた後継者・宗茂を、増時は道雪の死後も支えつづけます。宗茂の姉（または妹）にあたる女性が、増時の嫡子・成家へ嫁ぎ、立花家と縁戚関係ともなっています。

天正15（1587）年の、豊臣秀吉による島津攻め（九州征伐）の後、薩摩（現・鹿児島県西部）からの帰途で宗茂は、すでに賢賀と号していた増時へ、「立花」の名乗りを許しました。

さらには、立花家が秀吉によって筑後柳河へ配されると、宗茂は領内に五つの支城を設け、肥前国境にあたる筑後河畔の要衝・三瀨郡城島城（4000石）を、賢賀に預けています。

天正20（1592）年に始まった朝鮮出兵においては、柳河城の留守居を託されました。

ところが、すでに老境に達した賢賀の身には、大きな変転の時が待ち受けていたのです。

慶長5（1600）年9月の、関ヶ原の戦い—西軍に属した主君・宗茂の改易でした。

この時、筆頭家老（5000石）の小野和泉守鎮幸は、肥後加藤家へ。立花賢賀は黒田如水（官兵衛）の誘いで、筑前黒田家へ召し抱えられました。

黒田家で格別の待遇を受けた賢賀は、息子の成家に旧領と同じ4000石を与えられたといいますが、元和7（1621）年、宗茂は柳河へ再封されましたが、賢賀は旧主の許へは戻らず、黒田家の

家臣のまま、元和9年2月に筑前の地で死去しました。享年は81。その亡骸は生前の希望により、かつての主・戸次道雪が眠る墓所（のちの梅岳寺（現・福岡県糟屋郡新宮町））の傍らに埋葬されました。

立花賢賀こと増時の心は、常に道雪の背中を追っていたのかもしれない。

■文Ⅱ 加来耕三（つづく）



梅岳寺（新宮町）